

平成 30 年度慢性疼痛診療体制構築モデル事業（近畿地区）

事業実施報告書

事業実施報告書

1. 慢性疼痛診療体制

構築する慢性疼痛診療体制に参画した痛みセンター及び連携機関全てについて、下記に記載する。

【痛みセンター】

- ①：（施設名）大阪大学医学部附属病院  
（診療科名）麻酔科、整形外科、脳神経外科、神経内科、精神科  
（職種名）医師、リハビリ療法士、臨床心理士
- ②：（施設名）滋賀医科大学医学部附属病院  
（診療科名）ペインクリニック科、整形外科、リハ科、心療内科  
（職種名）医師、看護師、リハビリ療法士、臨床心理士、薬剤師

【連携機関】

- ①：（施設名）関西医科大学附属病院  
（診療科名）心療内科  
（職種名）医師 臨床心理士
- ②：（施設名）神戸大学医学部附属病院  
（診療科名）麻酔科ペインクリニック  
（職種名）医師 臨床心理士
- ③：（施設名）川崎医科大学附属病院  
（診療科名）麻酔科ペインクリニック  
（職種名）医師 臨床心理士
- ④：（施設名）独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター  
（診療科名）整形外科、リウマチ・膠原病・アレルギー科  
（職種名）医師、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士、看護師、臨床心理士
- ⑤：（施設名）篤友会 千里山病院・リハビリテーションクリニック  
（診療科名）内科 リハビリテーション科  
（職種名）医師 リハビリ療法士 臨床心理士
- ⑥：（施設名）市立芦屋病院  
（診療科名）緩和ケアチーム  
（職種名）薬剤師 看護師 医師 臨床心理士 リハビリ療法士
- ⑦：（施設名）大津赤十字志賀病院  
（診療科名）整形外科 リハビリテーション科  
（職種名）医師、理学療法士
- ⑧：（施設名）膳所診療所

- (診療科名) 内科 (職業病外来)  
(職種名) 医師
- ⑨ : (施設名) 大阪大学歯学部附属病院  
(診療科名) 口腔補綴科  
(職種名) 歯科医師
- ⑩ : (施設名) 京都府立医科大学附属北部医療センター  
(診療科名) 麻酔科ペインクリニック  
(職種名) 医師
- ⑪ : (施設名) 奈良県立医科大学附属病院  
(診療科名) 麻酔科ペインクリニック  
(職種名) 医師
- ⑫ : (施設名) 福井大学医学部附属病院  
(診療科名) 麻酔科ペインクリニック  
(職種名) 医師
- ⑬ : (施設名) 和歌山県立医科大学附属病院  
(診療科名) 麻酔科ペインクリニック  
(職種名) 医師
- ⑭ : (施設名) 市立西宮中央病院  
(診療科名) 麻酔科ペインクリニック  
(職種名) 医師
- ⑮ : (施設名) 兵庫医科大学病院  
(診療科名) 麻酔科ペインクリニック  
(職種名) 医師
- ⑯ : (施設名) 医療法人早石会 早石病院  
(診療科名) 整形外科  
(職種名) 医師 理学療法士
- ⑰ : (施設名) 民医連 西淀病院・のぞと診療所  
(診療科名) 産業医  
(職種名) 医師 理学療法士

**【連携実績】**

連携により診察した患者数：延べ 109+芦屋 人

主な連携内容：(各機関ごとに別記載)

## 2. 痛み診療コーディネーターの配置



配置した施設：大阪大学医学部附属病院

配置した職種：臨床心理士

- ・ 篤友会千里山病院で短期入院プログラムを実施する症例について、相互医療機関の評価や治療方針を正確に伝達するために篤友会千里山病院でのカンファレンスに出席した。短期入院プログラムの心理療法を担当した。
- ・ 関西医科大学附属病院の臨床心理士と定期的に会合を開き、診療方針や治療内容について情報交換した。
- ・ 国立病院機構大阪南医療センターに出張し、リウマチ患者のチーム医療において臨床心理士の知識や能力を生かした役割について臨床心理士に助言するとともに、慢性痛を有する患者への対応や認知行動療法について指導した。

配置した施設：滋賀医科大学医学部附属病院

配置した職種：理学療法士 臨床心理士

- ・ 膳所診療所から紹介され、滋賀医科大学医学部附属病院で集学的治療を実施した症例について、復職にむけた対応方針を、企業、労働現場に正確に伝達するために、橋渡しを行った。
- ・ 日赤志賀病院で短期入院プログラムを実施する症例について、相互医療機関の評価や治療方針を正確に伝達した。
- ・ 集学的治療、認知行動療法、慢性疼痛診療の臨床研究と施行者育成について、施設間（膳所診療所、日赤志賀病院）の取り組み状況の情報及びデータ管理をおこなった。
- ・ 滋賀医科大学医学部附属病院での心理療法を担当した。
- ・ 関西医科大学附属病院の臨床心理士と定期的に会合を開き、診療方針や治療内容について情報交換した。

配置した施設：市立芦屋病院

配置した職種：薬剤師

- ・ サポートケアチーム（緩和ケアチーム）の本プロジェクトについてのリーダーを務めると共に、他院からの患者紹介の窓口としての役割や問い合わせに対応するために薬剤師外来を担当した。

配置した施設：篤友会千里山病院

配置した職種：理学療法士

- ・ 篤友会千里山病院での入院プログラムを実施する患者の診療が円滑に進むよう外来初診日、入院日、退院後の紹介元病院への受診日などの管理及び紹介状や報告書など文書の管理を行った。

### 3. 研修会の開催

研修会の開催回数：13 回

研修会の受講者数：約 600 人

研修内容等：

- ① 市民向け慢性痛セミナー：1.5 時間
- ② 開業医慢性痛診療セミナー：1.5 時間
- ③ リハビリ療法士慢性痛セミナー：3 時間
- ④ 関西痛みの診療研究会：4 時間
- ⑤ 臨床心理士慢性痛セミナー：2.5 時間
- ⑥ NPO いたみラボ地域別医療者研修会：4 時間
- ⑦ その他各地域別のセミナー 7 件：15 時間

研修会はトータル 13 回実施し、総数延べ約 600 名を超える参加者であった。別に相互施設訪問を行い、延べ 17 名の医療者が、モデル事業に参加しているさまざまな施設にて慢性痛診療の実習（計約 60 時間）を体験した。（見学報告書は HP にて紹介 <http://painkinki.html.xdomain.jp/member.html> パスワード「kenGaku」）

## 総括

### はじめに

生物心理社会モデルに基づいた慢性痛に対する集学的診療を現行の医療体制の下で継続的に運営することは困難である。しかし、本モデル事業に協力している医療者の多くは、集学的診療によって、従来の方法では改善が困難であった症例でも、最終的に社会復帰できて痛みから解放されることを経験している。それゆえ、さまざまな困難にもかかわらず、慢性痛に対する集学的診療が発展し普及するよう努力を続けている。平成30年度に本モデル事業で行った、1. 診療体制の構築 2. 診療連携 3. 医療者の育成 4. 広報活動・行政との連携 について報告する。

### 1. 診療体制の構築

#### 集学的外来診療

大阪大学医学部附属病院疼痛医療センター初診外来において、医師、臨床心理士、リハビリ療法士3名による集学的診療を実施した。対象は、痛みの原因特定が困難で、さらに多数の医療機関を経て来院した患者で、3者による評価を行ったのちにミニカンファを開いて意見を集約し、現実的な対応法を患者に提案する。慢性痛診療の標準化を目指した取り組みで、H29年度の本モデル事業にて千里山病院でも同様の診療を取り入れた。多数の見学者が阪大病院を訪れ学んだので、次年度以降、他の医療機関でも実施が期待できる。

滋賀医科大学附属病院痛みセンターにて、臨床心理士と理学療法士が連携して、1名の患者を約10回のセッションで治療する診療体制を構築してきた。膳所診療所からの就業に困難な慢性痛患者を主な対象とし、復職や就業内容の改善に優れた効果を上げた。今後、慢性痛診療に長けた公認心理師やリハビリ療法士を育成し、需要のある医療機関と連携体制を固め、適切な診療報酬を付すことにより、他の医療機関にも普及可能である。産業界における慢性痛問題を解決するためのモデルとなる取り組みである。

慢性痛に対するプログラム化された認知行動療法を大阪大学医学部附属病院、川崎医大附属病院、神戸大学医学部附属病院にて実施した。

#### 集学的入院治療

千里山病院で3週間の入院プログラムを実施してきた。内容は、医師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、音楽療法士によるチーム医療で、その効果を多面的評価法で確認するとともに、長期休職や失業状態から通常勤務が可能となるまで改善した症例を数多く経験した。入院リハにて改善が見込めるかどうかを判断するための評価法の標準化にも努めている。退院後の長期フォロー体制も検討しており、少数例ながら医療経済的な分析を行い学会報告している。

不適切な強オピオイドの処方や過量な鎮静薬の投与により、生活の質の低下を招いている患者の場合、外来での減薬は困難なことが多い。逆に、高齢者の筋骨格系の侵害受容性疼痛（脊椎圧迫骨折後遷延痛など）の場合、一時的な強オピオイドの使用にて活動範囲が拡大することが多い。しかし、外来での処方開始には転倒などのリスクを伴うために処方開始がためられる。このように、市立芦屋病院では「いたみどめ調整入院」を実施し、成果を上げてきた。

## 2. 診療連携

### 産業界との連携

前述の膳所診療所は、滋賀医科大学附属病院痛みセンターと連携して成果を上げている。大阪においても、産業関連の病態を扱っているのざと診療所と千里山病院の連携が始まった。まだ少数例に限られており、今後症例数の増加を図りたい。

### 心療内科との連携

関西医科大学附属病院心療内科を中心に月1回のWeb会議を開き、心療内科診療の対象となる患者の情報交換を行っている。連携症例数を別に示す。心療内科の診療内容を慢性痛診療にかかわる多数の医療者が理解を深め、有益な診療体制を構築するのに役立っている。

### 開業医との連携

一般開業医での慢性痛治療の向上、慢性痛の専門的機関との連携は、今後の慢性痛診療の改善には極めて重要である。本モデル事業では、昨年度から小委員会を立ち上げ、開業医慢性痛診療セミナーの開催準備を重ねてきた。本年度のモデル事業にて、リハビリ療法士を雇用している整形外科やペインクリニックの開業医を中心としたセミナーを開催し、慢性痛診療に関連する個々の施設の診療内容を紹介し、開業医が抱える課題について議論した。その結果、診療報酬上の問題点（外来でのリハビリが査定の対象になり、その際に本モデル事業で推奨している運動療法も査定の対象となっている事例がある。リハビリ療法士の安定した雇用が困難など）が明らかになるとともに、医療者が取り組むべき点（慢性痛患者とのコミュニケーションの取り方の研修など）が明らかとなった。今後さらに連携機関を増やし、開業医と専門機関の連続性のある診療体制の構築及び整備を図りたい。

### 歯科口腔外科との連携

歯科口腔外科では、抜歯後遷延痛、顎関節症など原因の特定が困難で、治療反応性の乏しい慢性痛患者が数多い。多数の医療機関を受診している場合も多く、大阪大学歯学部附属病院では、そのような患者を受け入れ診療している。医師では評価困難な歯科的な器質的異常の鑑別や、歯科領域では実施困難なリハビリテーションなどの点で連携している。今後、集学的診療にて改善する症例を重ねることによって、適切な患者紹介が可能となるよう連携体制を継続していく必要がある。

## 3. 医療者の育成

### 研修会

本モデル事業では、開業医慢性痛診療セミナー、リハビリ療法士慢性痛セミナー、関西痛みの診療研究会、臨床心理士慢性痛診療セミナー、NPO痛みラボ地域別医療者研修会、市民向け慢性痛セミナーの6つの全体セミナーと各施設・機関ごとに開かれた7つの地域別セミナーを開催した。それぞれの研修会は、参加者の専門性や興味の対象に沿うよう企画し、アンケート調査を行い次の企画の参考となるよう努めた。（各セミナーのアン



ケート内容はHP 参照)

#### 施設訪問

慢性痛診療の実践や診療内容の向上には他の医療機関の実際の慢性痛診療を見学することが有用である。本モデル事業では、HP 上で各施設の見学受け入れに関連した情報を提供し、現場研修をサポートした。事務局への報告件数は17件あり、研修報告をHP 上で供覧可能とした。

#### 4. 広報活動 行政との連携

モデル事業専用のホームページ <http://painkinki.html.xdomain.jp/index.html> と Facebook <https://www.facebook.com/painkinki.jp/> を立ち上げ、事業内容の広報に努めた。大阪では、府・豊中市と連携して市民公開講座を共催した。滋賀では県との連携を深め、滋賀県（健康医療福祉部）が作る地域医療計画において、慢性疼痛対策、具体的には滋賀医大国際的痛みセンターが中心となり医療者の育成、県民の啓発を行うことを、正式な県の医療政策とすることとなった。

#### 5. 課題

上記のように本モデル事業で新たな診療体制を構築し実績を重ねた一方、数多くの課題も明らかになった。慢性痛診療の構築に中心的役割を永続的に担う機関がないことから、中心メンバーの異動などにより、事業の運営継続が直ちに困難となりかねない。今後は、慢性痛の診療や教育、研究を推進するために中心的な役割を担う施設の創設が求められる。また、そのような施設の運営が可能になるために、診療報酬や支援体制の整備も重要である。

大阪大学医学部附属病院

## 大阪大学医学部附属病院

### ①特徴

大阪大学医学部附属病院疼痛医療センターは、平成 23 年度に厚労省指定研究班の一施設として慢性痛の集学的診療に取り組み、多面的評価法を開発するとともにこれらを用いた臨床データを蓄積し報告してきた。平成 26 年からは、医師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士による集学的診療外来を開始している。本事業開始後は、痛みセンターとして長年にわたり培ってきた慢性痛診療の知識を他の医療機関に伝えるとともに、他の医療機関との連携を密に行い、関西地区ひいては日本全体の慢性痛診療の発展に取り組んでいる。

### ②診療連携

合計 23 症例について、診療連携をした。以下に詳細を報告する。

#### ・関西医科大学附属病院

関西医科大学附属病院に、心療内科的アプローチが適すると思われる 7 症例を紹介した。

#### ・篤友会千里山病院

運動療法との併用や、入院リハビリテーションが適すると思われる 15 症例について、篤友会千里山病院集学的痛みセンターへ紹介した。うち、入院集学的リハビリテーションプログラムの適応となった患者は、7 症例であった。

#### ・なかつか整形外科リハビリクリニック

当院で CBT が終了した患者 1 症例のフォローアップとして、なかつか整形外科リハビリクリニックへ紹介し、継続した理学療法を受診した。

### ③研修会

・2018 年 9 月 2 日（日）大阪市のグランフロント大阪ナレッジキャピタルカンファレンスルームにて開業医慢性痛セミナーを開催した。参加人数は 23 名（医師 22 名・理学療法士 1 名）であった。

・2018 年 10 月 21 日（日）大阪市の CIVI 研修センター新大阪東にて理学療法士・作業療法士合同研修会を開催した。参加人数は 51 名（理学療法士 43 名・作業療法士 4 名・石 3 名・その他 1 名）であった。

・2019 年 1 月 14 日（月）大阪市の CIVI 研修センター新大阪東にて臨床心理士慢性痛セミナーを開催した。参加人数は 16 名（臨床心理士 10 名・理学療法士 4 名・作業療法士 1 名・医師 1 名）であった。

・2019 年 2 月 11 日（月）大阪市のグランフロント大阪ナレッジキャピタルカンファレンスルームにて慢性疼痛診療研修会（共催：認定 NPO 法人いたみ医学研究情報センター）を開催した。参加人数は 54 名（医師 18 名・理学療法士 18 名・心理士 6 名・作業療法士 5 名・歯科医師 3 名・看護師 2 名・健康運動指導士 1 名・その他 1 名）であった。

④施設訪問

- ・2018年7月、篤友会千里山病院の医師、理学療法士、作業療法士各1名が当院を見学に訪れた。
- ・2018年10月、篤友会千里山病院の音楽療法士2名が当院を見学に訪れた。
- ・2018年10月、大阪行岡医療大学の理学療法士1名が当院を見学に訪れた。
- ・2019年2月、篤友会千里山病院の理学療法士1名が当院を見学に訪れた。

⑤その他

なし

平成30年度 厚生労働省  
慢性疼痛診療体制構築モデル事業  
開業医慢性痛連携セミナー

日時

2018年 9月2日 日 10:00-12:30

グランフロント大阪北館タワーB 10階  
ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーB RoomB08  
定員:50名

9:30~ 受付開始

- 10:00~10:25 ①厚生労働省「慢性疼痛診療体制構築モデル事業」の紹介  
柴田 政彦  
(奈良学園大学保健医療学部 教授)
- 10:25~10:50 ②慢性痛に対するペインクリニック開業医の取り組み  
酒井 雅人  
(医療法人 酒井会 さかいペインクリニック 院長)
- 10:50~11:15 ③整形外科クリニックにおける慢性痛の実臨床  
~認知行動療法~  
田中 浩一  
(田中整形外科 院長)
- 11:15~11:40 ④整形外科クリニックにおける理学療法の現状について  
西上 智彦  
(甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 准教授)
- 11:40~12:05 ⑤認定NPO法人いたみ医学研究情報センター の医療者  
研修会について  
三木 健司  
(認定NPO法人いたみ医学研究情報センター 理事長)
- 12:05~12:30 総合討論

総合司会：中塚映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)  
阪上学 (さかうえクリニック 院長)

お申込み・お問い合わせ

E-mailにて①氏名(ふりがな) ②E-mailアドレス ③所属施設名 ④診療科(職種)をお送り  
いただくか、右記登録フォームよりお申込み下さい(〆切:2018/8/25)

宛先: kensyukai@pain.med.osaka-u.ac.jp

大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座 麻酔・集中治療医学教室(担当:塚本)



登録フォーム



平成30年度 厚生労働省  
慢性疼痛診療体制構築モデル事業

理学療法士・作業療法士合同研修会

日時 2018年**10月21日** 日 10:00~12:40

場所 CIVI研修センター 新大阪東 E603  
大阪市東淀川区東中島1丁目19番4号 新大阪NLCビル 6F

定員：50名

9:30~ 受付開始

10:00~10:30 ①リハビリに付け加えるちょっとした心理療法

榎本 聖香  
(大阪大学医学部附属病院疼痛医療センター)

10:30~11:00 ②恐怖条件付けの理論と臨床実践

前田 吉樹  
(奈良学園大学保健医療学部)

11:10~11:40 ③ペインクリニックにおける理学療法士の役割

壬生 彰  
(甲南女子大学看護リハビリテーション学部)

11:40~12:10 ④多施設型集学的リハビリテーションモデルにおける当院での  
効果とペーシング指導が奏功した慢性痛症例

鳴尾 彰人  
(篤友会リハビリテーションクリニック)

12:10~12:40 ⑤乳がんサバイバーの運動器疼痛の現状とリハビリテーション

萬福 允博  
(乳腺ケア泉州クリニック)

12:40~13:10 意見交換会

お申込み・お問い合わせ

E-mailにて①氏名(ふりがな) ②E-mailアドレス ③所属施設名 ④職種をお送りいただくか、  
右記登録フォームよりお申込み下さい(〆切:2018/10/15)

宛先: kensyukai@pain.med.osaka-u.ac.jp

大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座 麻酔・集中治療医学教室(担当:塚本)



登録フォーム

理学療法士・作業療法士合同研修会アンケート集計結果（46名回答/50名参加）

①職業について

- ・理学療法士 39名
- ・作業療法士 4名
- ・医師 2名（診療科：麻酔科、ペイン）
- ・その他 1名

②今回のセミナーについて

- ・よかった 35名
- ・まあよかった 10名
- ・あまりよくなかった 1名
- ・まったくよくなかった 0名

③今回のような企画をお知り合いに勧めますか？

- ・積極的に勧める 19名
- ・興味のあるような人に勧める 27名
- ・勧めない 0名

④勤務先のリハビリ療法士の今の診療内容について

- ・主にマッサージなど患者にとって受け身の治療が中心 1名
- ・運動療法など患者にとって能動的な治療が中心 14名
- ・上記、両方の治療を実施 31名

⑤どんな企画を希望されますか（次回以降）

- ・診療スキルについて 38名
- ・慢性痛治療に関連したエビデンスや臨床研究に関連したもの 28名
- ・その他
  - ・実際のセラピストや関連職種の実介入が分かるようなものがあれば興味があります。
  - ・痛みのリハビリを拒否する方のリハビリテーションの報告事例を知りたい。
  - ・認知行動療法+運動療法について、症例報告を含め詳細に勉強したい。
  - ・慢性痛患者における予防的介入、診療のあり方
  - ・慢性痛患者への評価



平成30年度 厚生労働省  
慢性疼痛診療体制構築モデル事業  
臨床心理士慢性痛セミナー

日時

2019年 1月14日 月 10:00-12:30

CIVI研修センター 新大阪東 E503

大阪市東淀川区東中島1丁目19番4号 新大阪NLCビル5F

定員:30名

9:30~ 受付開始

10:00~10:05 開会のあいさつ

金井 菜穂子  
(市立芦屋病院 緩和ケア内科)

10:05~10:20 サポートイブケアチームによる非がん性慢性痛治療の経験  
: 臨床心理士の役割

金井 菜穂子  
(市立芦屋病院 緩和ケア内科)

10:20~10:35 慢性痛を抱えるリウマチ性疾患患者への心理的サポートの試み

木村 美佐子  
(国立病院機構 大阪南医療センター)

10:35~11:20 慢性疼痛 症例報告  
: 描画による外在化を用いた認知行動療法の一症例

榎本 聖香  
(滋賀医科大学医学部附属病院 / 大阪大学医学部附属病院)

~ 休憩 ~

11:30~12:30 痛みの行動科学: 公認心理師への期待

柴田 政彦  
(奈良学園大学保健医療学部 教授)

お申込み・お問い合わせ

E-mailにて①氏名(ふりがな) ②E-mailアドレス ③所属施設名 ④診療科(職種)をお送り  
いただくか、右記登録フォームよりお申込み下さい(〆切:2018/12/15)

宛先: kensyukai@pain.med.osaka-u.ac.jp

大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座 麻酔・集中治療医学教室(担当:塚本)



登録フォーム

臨床心理士慢性痛セミナー アンケート集計結果（18名回答/20名参加）

①職業について

- ・臨床心理士 10名（うち4月から公認心理士9名）
- ・理学療法士 4名
- ・音楽療法士 2名
- ・作業療法士 1名
- ・その他 1名

②今回のセミナーについて

- ・よかった 14名
- ・まあよかった 3名
- ・未回答 1名

③今回のような企画をお知り合いに勧めますか？

- ・積極的に勧める 5名
- ・興味のあるりそうな人に勧める 13名

④あなたの勤務されている状況について教えてください（主なもの1つ）

- ・病院などの医療機関の常勤 12名
- ・運動療法などの医療機関の非常勤 5名
- ・研修生 1名

⑤どんな企画を希望されますか？（次回以降）

- ・診療スキルについて 17名
- ・慢性痛治療に関連したエビデンスや臨床研究に関連したもの 10名
- ・その他
  - ・見立ての立て方について、ワーク形式で学ぶものがあると実践場面でとても有用でありがたいと感じました。
  - ・慢性疼痛に対する CBT 以外の心理療法について

厚生労働省

# 平成30年度慢性疼痛診療体制構築モデル事業 慢性疼痛診療研修会

共催：認定NPO法人いたみ医学研究情報センター

- 12:40 受付開始
- 13:00～14:00 ワークショップ  
「慢性痛診療のためのコミュニケーションスキルを磨く  
—こんな患者さんに開業医はどう対応する？」
- 14:00～14:20 休憩
- 14:20～15:20 「慢性疼痛患者とのコミュニケーションを考える」  
演者：酒井美枝（名古屋市立大学病院いたみセンター 臨床心理士）
- 15:20～15:50 「慢性痛患者に対する診療のコツ—効果的に理学療法・作業療法  
を行うために知っておきたいこと—」  
演者：中原 理（篤友会千里山病院 理学療法士）
- 15:50～16:20 「ペインクリニック開業医で心療内科とリハビリテーションを取り  
入れた治療体制」  
演者：河田 圭司（医療法人 良仁会 かわたペインクリニック 院長）
- 16:20～17:00 総合討論  
総合司会：三木健司（早石病院疼痛医療センター）

日時

2019年

2月11日 月・祝 13:00-17:00 先着50名様

グランフロント大阪北館タワーC 8階  
ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC05

参加対象者：医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、  
薬剤師、MSW など医療者や痛みを専門とする研究者等

## お申込み・お問い合わせ

E-mailにて①氏名（ふりがな）②E-mailアドレス ③所属施設名 ④職種をお送  
りいただくか、右記登録フォームよりお申込み下さい（〆切：2019/1/20）

宛先：kensyukai@pain.med.osaka-u.ac.jp

大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座 麻酔・集中治療医学教室（担当：塚本）



## 【良かった点】

- ・多職種と意見交換できた点。
- ・ロールプレーにより未熟さが分かって良かった。
- ・総合時間が適度な長さで良かった。
- ・慢性疼痛の考え方が変わった。コミュニケーションは苦手だが必要さを感じたので、明日の診療から頑張りたい。  
ワークショップ形式だったので眠らずに受講できた。
- ・他職種の考え方や意見を聞くことができ勉強になりました。  
多くの人とコミュニケーションをとり、いろいろな考え方を取り入れていきたいと思いました。
- ・グループディスカッションにて色々な方の意見がきけました。  
また違う職業の方の意見が聞けるいい機会でした。
- ・良い先生、悪い先生の比較は良くわかって良かった。  
下肢痛の患者に手術がプラセボとなる事があるのは驚いた。  
何をエンドポイントとして患者さんに向き合うか改めて考える機会になりました。
- ・ロールプレイが多く、体験的に学べたり、臨床について考えることができとても良かったです。特に最初のワークショップの患者に  
何を聴くか、何をすべきか考えるワークで他職種の意見をいろいろときけたのが良かったです。
- ・色々な職業の方々の意見を聞くことが出来ました。  
実際にワークをすることで普段の臨床で感じていることを明確にすることが出来ました。
- ・様々な職種の意見が聞けるワークショップは有意義であった。1つのテーマに関して、ディスカッションする機会が少ない為、臨床  
心理士、医師の先生方から見た視点には様々な気づきをえた。
- ・具体的なロールプレイングや他の職種の方々とのコミュニケーションを取れる機会が多かったので、リアルな意見や状況が  
わかり勉強になりました。  
明日からつかってみようと思う知識が多かったと思います。
- ・痛みについて多職種がどのように取りくんでいるかがわかった。
- ・漫然とおこなっていた今までの診療の問題点に気づけた。
- ・慢性痛に対する医療者側の必要な「姿勢」「取り組み」が理解できた。
- ・ワークショップということで自分自身が患者になることで気持ちを理解できた。様々な職種の意見を聞くことができた。
- ・ワークショップ形式やグループワークで話し合いができたこと。
- ・幅広く多職種の方のアプローチを聴き学ぶことができ、狭視野に陥りやすい、短時間診療の中で問うべき留意点の頭の整理ができた。
- ・全くの専門外でしたが、わかりやすい説明が多く理解することができました。  
コーチングと患者様への対応がほぼ一緒なことにおどろきました。
- ・多職種の方と疼痛についてディスカッションすることがはじめてでした。  
各職種の意見や思考が聞けてとても参考になりました。
- ・問診での悪いパターンと良いパターンを実践していただいたことで、共感することの大切さを改めて実感することができて良かったです。
- ・三木先生が楽しい。  
多職種のお話が聞けた。
- ・ワークショップ形式であったこと。内容も分かりやすかったです。
- ・小チームに分かれてディスカッション出来る機会が多いことがすばらしいと思いました。

先生方のお話しも具体的で、実臨床に使用出来ることが多く、勉強になりました。

- ・患者様の立場に立って考えることができた。
  - ・医師、臨床心理士の方々と交流ができて様々な意見交換ができたこと。
  - ・事例、ロールプレイなどで具体的イメージをつけやすくしていただき、よかったです。
  - ・治療者として関わるスタンスと知識の整理が出来る情報が得られた。
  - ・他職種の方々とディスカッションできて良い刺激になりました。
  - ・実際の職場には臨床心理士の先生はいないので、今回の研修会で話を聞くことができたので、とても勉強になりました。
- ありがとうございました。
- ・ディスカッションを行うことでいろいろな意見を聞くことができて勉強になりました。

自分のしていた事が、疼痛行動を強化していた可能性があること分かりました。行動をゴールに設定しようと思います。

まずは共感することが大切だと分かりました。

- ・ワークショップ:コミュニケーションスキル

- ・酒井先生のコミュニケーションの講演

2つがとても役に立ちました。

三木先生、いつもありがとうございます。

- ・医師を始め、他業種の先生と話をできた事と、コミュニケーションが疼痛に影響する事や、その対応をいかに好循環にもっていくかを知れました。
- ・普段は接することのない業種の方とグループワークをすることができたので、改めて自分に不足している視点や、知っているつもりがおろそかにしている点に気づくことができました。
- ・上から視線はダメ、と学んだ。  
グループ討論はよかった。
- ・ワークショップが企画されていたこと。
- ・痛みの診療で患者さんと向き合う姿勢について学ぶことができました。  
ありがとうございました。
- ・普段、聞けない話を聞くことが出来、明日からの診療に使いそうです。
- ・療法士、麻酔科医のみかたがうかがいしれた。  
会場が駅ビルでアクセスがよかった。  
何といっても無料なのがよい。
- ・ロールプレイを踏まえながら、心理社会面を考える良いきっかけになったと思う。
- ・他職種との交流、意見交換ができ良かった。  
実際にコミュニケーションを体験できたこと。
- ・ロールプレイ。  
かわた Dr.の取り組み紹介。
- ・慢性痛はいつ出あうかわからないので、患者さんの言動1つ1つに敏感に感じとれる医療者となるよう、臨床にとりくみたいと改めて思う。  
多施設・多職種でロールプレイすることで、ちがう視点がわかる。  
自分の心の健康も大事だと思った。
- ・ワークショップとして討論する機会があることで、多くの考えが自身に入った。  
又、多職種の方と話が出来たことも良かった。

- ・慢性疼痛の患者様に対してマイナス感情をいただくことがありましたが、自分自身のかかわりが大きく影響しているのだとわかりました。メンタル面も follow できるようにがんばって行きたいと思います。
- ・様々な職種の先生方の貴重なご意見と考え方をお教えていただき勉強になりました。  
また院内で研修する際には今日勉強させていただいたことを参考にさせていただきたいと思います。
- ・ワークショップ形式で様々な意見がきけた。
- ・コミュニケーションの取り方など日々の臨床に少しずつ活かせる点があったと思いました。  
また、痛みの目標設定について悩むことが多く、今後の臨床で活かせると感じました。  
グループワークで他職種の意見がきけて良かったです。
- ・他職種の意見が開けた。  
いたみセンターや開業医での実際の診療の様子が学べた。
- ・ふだん関わることのない他の職種の方の話をきくことができたり、交流ができてよかったです。  
今後やっていこう！と思うことが見えてきたので良かったです。

#### 【改善した方がよい点】

- ・講師チョイス。  
机とイスの配置。(首が痛い)
- ・参加者同士の交流をもっと進めてもらえばと思います。
- ・後半はディスカッションの時間があつたらよかったです。
- ・内容が深い時間が短く感じました。
- ・最後の先生、3分診療の理由はあまり良くなかった。
- ・休けいがもう少しほしかったです。
- ・意見交換の時間がもう少しあると良かったと思います。
- ・スライド中心の講義は集中できないので、ワークショップやディスカッション中心である方がより有意義な時間となりやすい。
- ・集中力があまり続くタイプではないので、1.5hに1回ぐらいいは5分でもいいのでプログラムに休暇を頂けると嬉しいです。  
ですので結果、休暇をとっていただけたことはうれしかったです。
- ・タイムスケジュールがルーズ。
- ・休憩時間の設定。
- ・後半は話し合いが少なかつたか。
- ・会場がわかりにくいので、どこのエレベーターに乗ったらいいか、ガイド的なものをお知らせいただければと思います。
- ・タイムコントロール。
- ・特にありませんが、机が横向きで、講演を聞く時は首が痛いことがありました。
- ・患者様の意見に共感することが大切だと思った。
- ・休憩時間を後半にも予定しておいていただきたかったです。
- ・途中休憩時間が足りないように感じました。
- ・総論はいらない。(講義2と3)
- ・発表の内容。
- ・時間の管理をもう少し厳格にして欲しい。(遠くから参加していると気になってしまいます)
- ・後半セッションの間に休憩を。

- ・症例を通した経験等もお聞きしたい。
- ・もっと症例がききたかったです。
- ・患者さんの準備性についても勉強できればうれしいです。
- ・内容について、職種に特化しすぎている様な内容があり、理解が難しかった。
- ・グループワークの時間をもう少し欲しかったです。
- ・教科書的な話にとどまるのではなく、海外との比較もしながら最新の論文、エビデンスの紹介がほしかったです。
- ・ワークがとても多く少し疲れてしまった。

- ・特になし。
- ・ありません。
- ・特にありません。

#### 【その他】

- ・次回も機会があれば参加したい。
- ・三木先生の好悪いお医者さん演技は、色々な悪い Point がちりばめられていらっしや、勉強になりました。お人柄の良さはでていましたがありがとうございます。  
酒井先生のワークは日々のふりかえりにもなりました。
- ・参加者同士の交流の時間がもう少しあればなおよい。
- ・色々な視点から話題を提供していただき、とても楽しい時間でした。
- ・4hr.のワークショップでは2回の休憩は必要ですね。
- ・参加させていただき、ありがとうございました!!
- ・多職種の方の意見が聞ける貴重な機会でした。
- ・参加している職種に片寄りがあるように感じました。(広報のせいというよりも参加する側の意識の問題かもしれませんが) 認知行動療法で改善した当事者の話が聞ければ尚よかったですと思います。
- ・多くの情報が得られました。今後も参加すると思います。よろしく願いいたします。
- ・貴重な研修ありがとうございました。
- ・他職種がどんなふうに連けいを「開始」できるのか。  
(今、保険的にも理解がないため、病院の持ち出しになるし、医療者側の負担が大きく、理解が得られず、診療者自身がコドクに治療している。

滋賀医科大学医学部附属病院



## 滋賀医科大学医学部附属病院

### ① 特徴

滋賀医科大学医学部附属病院は、平成 23 年から**厚労省慢性の痛み対策研究班**の一施設として、慢性痛の脳機能画像を中心とした臨床研究に貢献してきた。平成 25 年には学際的痛み治療センターを設立し、医師や看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、薬剤師、基礎医学生理学講座などが中心となり、集学的診療を実践してきた。本事業開始後は、以前より連携していた滋賀県内の医療機関との連携を深めるとともに、大阪大学とともに関西地区の慢性痛診療の発展に取り組んでいる。

### ② 診療連携

合計 15 症例について、診療連携をした。以下に詳細を報告する。

#### ・膳所診療所

膳所診療所より、集学的診療が適すると思われる 13 症例について紹介を受け、うち 8 症例について、理学療法士と臨床心理士による治療介入を行った。

#### ・篤友会千里山病院

入院リハビリテーションプログラムが適すると思われる 1 症例について、篤友会千里山病院へ紹介した。(入院リハ適応とはならなかった)

#### ・関西医科大学医学部附属病院

関西医科大学の水野先生と月 1 回の Web カンファレンスを設けた。滋賀医科大学に通院する交通事故後の患者 1 症例を紹介した。

### ③ 研修会

・2018 年 7 月 15 日、滋賀医科大学医学部附属病院にて、「運動器疼痛の最前線」という講演を行い、理学療法士や作業療法士など 48 名が参加した。

### ④ 施設訪問

・2018 年 7 月 5 日と 19 日に篤友会千里山病院より、作業療法士、理学療法士の見学を受け入れた。理学療法士と臨床心理士による集学的診療を見学してもらった。

・2018 年 8 月 23 日に大津赤十字志賀病院より、理学療法士の見学を受け入れた。理学療法士と臨床心理士による集学的診療を見学してもらった。

### ⑤ その他

・2018 年 5 月 10 日、京都新聞朝刊にて、滋賀医科大学学際的痛みセンターが紹介された。集学的診療をはじめとする滋賀医科大学での診療内容が掲載された。

・2019 年 2・3 月に、「家庭画報」にて、滋賀医科大学学際的痛みセンターが紹介された。集学的診療をはじめとする滋賀医科大学での診療内容が掲載された。

# 運動器疼痛の最前線

—集学的治療から臨床現場での実践について—

近年、慢性疼痛を含む運動器疼痛の研究が盛んとなっています。特に慢性疼痛に対する治療戦略では、生物学的な病態だけでなく脳機能変化や心理社会的側面など、多角的に捉え展開することが必要となります。

そこで、今回は当院ペインクリニック科の医師より慢性疼痛の基礎および集学的痛み治療の最前線について、リハビリテーションは、エビデンスに基づいた実際の介入実践について講義を行います。

共催：学際的痛み治療センター

後援：（公社）滋賀県理学療法士会

**日時：2018年7月15日（日）**

**場所：滋賀医科大学医学部附属病院 臨床講義棟 1**

**時間：12：30 受付**

**13：00 開始～16：30 終了**

**講師：ペインクリニック科 学際的痛み治療センター**

**福井 聖（医師） 先生**

**リハビリテーション部**

**久郷 真人（理学療法士）先生**

定員：50名（先着順） 参加費：2,000円（\*別途駐車料金200円が必要となる可能性あり）

申込方法：E-mailにて、件名に「第3回運動器研修会参加希望」と明記の上、本文に、

①氏名（漢字・ふりがな）②所属先③職種④連絡先（E-mail・TEL）を添えて下記アドレスまで連絡下さい

申込締切日：2018年6月29日（金）（応募多数の場合は先着順となります。ご了承下さい。）

\*専門・認定理学療法士制度のポイント（運動器）認証を申請中（理学療法士の方のみ）

\*同一施設から複数名のお申込みの場合は、代表の方がまとめてお申し込みください。

【お申込み・問い合わせ】



リハビリテーション部 澤野翔一朗

E-mail : shin0701@belle.shiga-med.ac.jp

TEL : 077-548-2670（リハビリテーション部直通）

関西医科大学附属病院

## 関西医科大学附属病院心療内科

### ①特徴

当科は 1993 年の誕生以来、慢性痛と機能性消化器疾患(FGID) に軸を置いた臨床を実践している。FGID では痛みを主訴とすることも多く、全外来患者の 40~50%が痛みを問題として受診している。当科ではこういった患者に対し薬物療法だけでなく、心理療法、理学療法、運動療法、リラクゼーションなどの身体的療法も加えた心身医学療法を行なっている。複雑な病態を持った患者には、入院による病態評価、短期治療も行なっている。全国で心療内科の単独講座を持つのはわずか 7 大学のみであり、その中でも当科は最も慢性痛に力を注いでいると自負している。慢性痛の分野で近縁重視される心身医学的治療について、全国でもトップレベルの医療を提供しているといえる。

### ②診療連携

合計 12 症例について、診療連携をした。以下に詳細を報告する。

#### ・篤友会千里山病院／リハビリテーションクリニック

当科から篤友会リハビリテーションクリニックへ、外来リハビリテーション目的で慢性疼痛、歩行障害の 1 症例を紹介した。→適応時期になく、今後の入院リハビリを見越して紹介元で経過観察。

篤友会千里山病院へ入院および外来リハビリテーション目的で身体症状症、腰・左下肢痛の 1 症例を紹介した。→月 1 回程度継続通院中。

篤友会千里山病院から当科へ、心身医学的治療目的で非特異的機能性肛門直腸痛の 1 症例の紹介を受けた。→病態整理、運動療法目的で当科入院。その後外来加療予定。

#### ・大阪大学附属病院

大阪大学附属病院麻酔科から、病態評価、心身医学的治療目的で 7 症例の紹介を受けた。中枢介在性腹痛症候群が 2 例、筋骨格系慢性疼痛が 5 例である。

→5 名は継続通院。中枢介在性腹痛症候群の 1 名は、症状はあまり変わらないがもともと通院希望は低く終診となった。筋骨格系慢性疼痛の 1 名は精神障害が主たる問題であり、患者自身も痛みの原因を精神的ストレスであると認識していたため、引き続きかかりつけの精神科クリニックへ通院継続の方針で当科は初診のみで終了となった。

#### ・京都府立医大北部医療センター

京都府立医大北部医療センターペインクリニックから、病態評価、心身医学的治療目的で 1 症例の紹介を受けた。機能性胆嚢オッジ括約筋障害、大後頭神経痛として当科へ外来通院中である。→痛み症状は軽快し、残る不安障害の加療目的で京都府立医大北部医療センター精神科へ紹介し当科は終診となった。

- ・滋賀医科大学附属病院

滋賀医科大学附属病院ペインクリニックから、交通事故後慢性疼痛の治療目的で 1 症例の紹介を受けた。継続診療の方針となった。

### ③研修会

関西医科大学心療内科では、計 2 つの研修会を実施した。

- ・痛み診療におけるポジティブサイコロジーの応用

2019 年 1 月 10 日、関西医科大学にて、講演「慢性痛診療と健康生成論（サルートジェネシス）」および参画型研修「ウェルビーイング手法の実践講座」という内容の研修会を行った。医師、心理士、理学療法士などの医療関係者 24 名が参加した。

- ・第 9 回関西痛みの診療研究会

2018 年 12 月 15 日、関西医科大学にて、施設紹介、症例報告、診療ロールプレイという内容の研修会を行った。医師、心理士、理学療法士などの医療関係者 31 名が参加した。

### ④施設訪問

2019 年 1 月 7 日に 1 名、1 月 21 日に 2 名の臨床心理士が、当科から篤友会千里山病院へ見学に行き、集学的診療の様子を見学した。

### ⑤その他

前年度から継続して、滋賀医科大学の学際的カンファレンスに月 1 回 Web 経由で参加した。

8 月から月 1 回 Web カンファレンスを開催した。約 1 時間でモデル事業参加医療機関の 4~8 人程度が参加。相互紹介患者（受診予定含む）の情報共有、新規患者を他院心療内科へ紹介した経緯、心療内科と精神科の守備範囲、適切な紹介患者像や目的などについて活発な議論を交わした。

# **第9回 関西痛みの診療研究会**

## **プログラム・抄録集**

**2018年12月15日（土）**

**関西医科大学学舎4階中会議室**

## 施設紹介 1～2

座長 福井 聖 先生

滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科

## 施設紹介 1 「近畿大学医学部心療内科、緩和ケア科で診ている慢性疼痛」

演者 阪本 亮 先生

近畿大学医学部内科学教室 心療内科部門

## 施設紹介 2 「当院の集学的痛みセンターにおけるコーディネーターの役割について」

演者 中原 理 先生

篤友会 千里山病院リハビリテーション部

## 症例紹介 1

### 「治療がすべて無効であった下肢 CRPS の 1 症例」

座長 高雄 由美子 先生

兵庫医科大学麻酔科疼痛制御学 ペインクリニック部

演者 渡邊 恵介 先生

奈良県立医科大学附属病院 ペインセンター

## 症例紹介 2

### 「乳がんサバイバーの慢性腰痛に対してオピオイド鎮痛薬が導入され離脱困難になっている一例」

座長 前田 倫 先生

西宮市立中央病院 麻酔科・ペインクリニック科

演者 栗山 俊之 先生

和歌山県立医科大学 麻酔科学教室

## 症例紹介 3

### 「CRPS を繰り返し下肢麻痺に至った一例」

座長 柴田 政彦 先生

奈良学園大学保健医療学部

演者 永井 貴子先生

兵庫医科大学ペインクリニック部

## ロールプレイ

座長 水野 泰行 先生 関西医科大学心療内科

阪本 亮 先生 近畿大学医学部内科学教室 心療内科部門

# 痛み診療における ポジティブサイコロジの応用

日時 2019年1月10日(木) 18:00~20:00

会場 関西医科大学(学舎)4階 中会議室

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目5-1  
TEL: 072-804-0101 (代表)

URI: <http://www.kmu.ac.jp/hirakata/>

慢性痛診療と健康生成論(サルトジェネシス) 18:00~

関西医科大学心療内科学講座 診療講師 水野 泰行 先生

ウェルビーイング手法の実践講座 18:30~

龍谷大学保健管理センター 教授

龍谷大学短期大学部 教授 須賀英道 先生

講演会終了後、近隣の店で懇親会(有料)を予定しております。

申し込み方法: ①お名前 ②所属 ③職種 ④懇親会参加の有無を、  
[shikatac@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:shikatac@hirakata.kmu.ac.jp) (担当: 四方) までメールでご連絡ください

主催: 関西医科大学心療内科学講座

厚生労働省慢性疼痛診療体制構築モデル事業



神戸大学医学部附属病院

## 神戸大学医学部附属病院

### ①特徴

当院では2017年度から週一回、専門の臨床心理士(徳島大学大学院総合科学研究部社会総合科学部門人間科学系(心理学分野)准教授 福森崇貴 先生)による認知行動療法(cognitive behavioral therapy: CBT)を行っている。患者選択は、ペインクリニック外来に通院中の患者の中から主治医がCBTに適していると思われる患者を選び、福森先生との面談の後、希望する患者に行うこととしている。実施しているCBTプログラムは、先行研究の詳細なレビューによって、有効性が高いと考えられる技法(心理教育と目標設定, リラクゼーション, アクティブティペーシング, 認知再構成, 再発予防)から構成されたものであり、実施回数は原則1クール8回としている。

### ②診療連携

現在、本事業を目的とした具体的な診療連携は行っていないが、今後①に示した専門臨床心理士による認知行動療法を行っていることを地域にプロパガンダし診療連携を広げたいと考えている。

### ③研修会

本期間中(H30年11月～12月)は行っていない。

### ④施設訪問

本期間中(H30年11月～12月)は行っていない

### ⑤その他

これまで認知行動療法の全行程(週1回を計8回)を終了した患者は4名、疾患の内訳は、線維筋痛症が2名、頸髄損傷後の後頭部・後頸部痛が1名、CRPSが1名である。

いずれの患者様も痛みとしては改善に至らなかったが、生活満足度・QOL・自己効力感の項目で向上が認められた。4名のうち、実臨床で例えば内服薬の減量に至った方は3名、通院頻度の減少に至った人は1名であった。

福森先生はおよそ毎週金曜日の午後に、1～2名/日でセッションを行っており現在は現在進行中の患者様が1名(次回がセッション8)、認知行動療法を希望されて面談を行う予定の方が1名いる。

篤友会千里山病院

篤友会リハビリテーションクリニック

## 篤友会千里山病院

### ①特徴

千里山病院は60床の亜急性期病院である。内科、リハビリテーション科からなり、地域包括ケア病院を目指している。平成27年2月から大阪大学疼痛医療センターと連携して慢性痛に対する入院集学的リハを施行している。平成29年10月からは、外来部門も整備し、入院機能と併せて、集学的痛みセンターを開設した。従来の3週間入院プログラムに加えて、診察や運動などの生活指導を行う理学療法作業療法なども外来で行う診療も充実してきている。また、入院の前に外来にて教育的介入を行うこと、退院後にフォローを行うことで、以前より効果を上げている。初診時から、多職種が評価治療をする集学的診療を実施していることが特徴の一つである。

### ②診療連携

4月～10月25症例紹介受診があった。11月～12月初診患者10症例中6例がモデル事業関連病院からの紹介であった。以下に詳細を報告する。

#### 11月～12月 6症例の詳細

- ・ 阪大病院疼痛センター 3名  
肩甲骨周囲と腰部の痛み、全身痛を主訴とする一次性慢性痛患者2名  
前立腺がん術後遷延性腹部痛1名  
1名は初診にて終了し、1名に入院集学的リハを施行し、1名は外来リハを施行した。
- ・ 京都府立医科大学付属病院北部医療センター 1名  
術後遷延性腰痛症 1名に対し、入院集学的リハを施行した。
- ・ 市立芦屋病院 1名  
腰部。下肢痛 1名に対して外来リハ施行中。
- ・ 関西医科大学総合医療センター 1名  
両下肢のしびれ痛み 1名 痛みの原因検索が希望であったため、初診で終了となった。

#### 4月～10月 25症例の内訳

- ・ 阪大病院疼痛センター 12名
- ・ のぎと診療所・膳所診療所 2名
- ・ さかいペインクリニック
- ・ 関西医科大学付属病院
- ・ 市立芦屋病院
- ・ 兵庫医大ペインクリニック
- ・ 滋賀医大ペインクリニック
  
- ・ 市立芦屋病院 麻酔科

- ・兵庫医大整形外科
- ・京都府立医科大学付属病院北部医療センター
- ・関西医科大学付属病院 心療内科 各1名

### ③研修会

9月24日 市民公開講座を千里ライフサイエンスセンターにて開催した。

### ④施設訪問

7月 医師、理学療法士、作業療法士各1名が阪大疼痛センター訪問した。

7月 理学療法士2名が滋賀医大ペインクリニック訪問した。

7月 理学療法士1名が川崎医大ペインクリニック訪問した。

8月20日のぞと診療所より医師1名、理学療法士2名が集学的痛みセンターを見学した。

10月 音楽療法士2名が阪大疼痛センター訪問した。

10月22日 大阪労災病院より理学療法士1名が集学的痛みセンターを見学した。

1月 関西医科大学病院より臨床心理士が集学的痛みセンター見学予定である。

### ⑤その他

## 篤友会リハビリテーションクリニック

### ①特徴

外来と訪問のリハビリテーション（以下、リハ）を施行しているリハ科単科のクリニックである。医師は常勤医 1 名非常勤 4 名で、非常勤 1 名の除く全員がリハ科専門医である。療法士は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が計 25 名在籍し、生活期のリハを提供している。平成 25 年から大阪大学医学部附属病院疼痛医療センターと連携し、慢性疼痛の外来診療に取り組んできた。阪大疼痛センター、関西医大病院をはじめ、近隣のペインクリニックなどからも慢性疼痛患者の紹介が現在までに 62 名あった。特に、週に 1 回 1 時間の外来運動療法を 3 か月継続するプログラムは効果を認め、運動器疼痛学会、ペインリハ学会、日本リハ学会などで報告してきた。

### ②診療連携

合計 4 症例について、診療連携をした。以下に詳細を報告する。

#### ・ 阪大病院疼痛センター

運動療法を目的として、身体症状症 1 名、HPV ワクチン接種後の痛み 1 名、慢性腰痛症 1 名の紹介を受けた。

#### ・ 関西医大病院心療内科

運動療法を目的として、慢性疼痛症候群 1 名の紹介を受けた。

### ③研修会

実施なし

### ④施設訪問

調整中

### ⑤その他

# 市民公開講座

入場無料  
定員150名  
要・事前登録  
定員になり次第受付終了

## 長引く痛みの最新治療

～従来の治療で治らなかった方のために～

日時

2018年9月24日 (月・祝)

10:30～12:00 (10:00～開場)

会場

千里ライフサイエンスセンター 501～503

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

講演

1 厚生労働省 慢性疼痛診療体制構築モデル事業について

柴田 政彦 大阪大学医学部附属病院疼痛医療センター 医師  
奈良学園大学保健医療学部 教授

講演

2 長引く痛みを克服し、前向き人生を手に入れよう

高橋 紀代 篤友会リハビリテーションクリニック 院長  
篤友会千里山病院 医師

講演

3 慢性痛に対する千里山病院の取り組み

中原理 篤友会千里山病院 療法部長 理学療法士

講演

4 いたみどめ調整入院

岡本 禎晃 市立芦屋病院薬剤科部長  
緩和薬物療法認定薬剤師

司会

眞下 節 (市立豊中病院 総長)  
橋本 淳 (独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター 統括診療部長)



痛みからの解放へ第一歩

共催：厚生労働省慢性疼痛診療体制構築モデル事業、大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座麻酔・集中治療医学教室、篤友会リハビリテーションクリニック、篤友会千里山病院  
後援：大阪府、豊中市、吹田市、大阪府医師会

お申し込みは裏面をご覧ください

お問い合わせ E-mail: seminar@pain.med.osaka-u.ac.jp

## 講演者紹介

### 柴田 政彦

大阪大学医学部附属病院疼痛医療センター医師・奈良学園大学保健医療学部教授・大阪大学大学院医学系研究科招へい教授

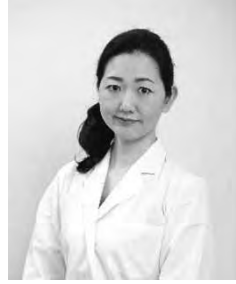
慢性疼痛に対する診療体制を整備する目的でH29年度から厚生労働省の補助金でモデル事業に取り組んでいる。阪大医学部附属病院疼痛医療センターを中心に、滋賀医大附属病院、関西医科大学、国立行政法人大阪南病院、篤友会千里山病院、市立芦屋病院などが連携している。その目的や内容についてお話しする。



### 高橋 紀代

篤友会リハビリテーションクリニック院長

長引く痛みには、自分で体を動かすこと、自分の体を手入れすることが効果的です。体の動かし方や、考え方の癖を直すだけでも痛みが和らぎます。今日からできる痛みへの取り組みを紹介します。



### 中原 理

千里山病院  
療法部長 理学療法士

長引く痛みで悩んでいる患者さんはたくさんいます。当院では、各国で推奨され有効性の高い、「多面的かつ包括的な治療」に取り組んでいます。



### 岡本 禎晃

市立芦屋病院薬剤科部長  
緩和薬物療法認定薬剤師

お薬の効かない痛みに対して服用されているお薬を、安全に減らすお手伝いをしています。また、慢性の腰痛に対して医療用麻薬を安全に使用のお手伝いもしています。



## 会場地図



参加ご希望の方は、下記①～③の情報を明記の上、FAX、E-mail、はがきのいずれかでご応募ください。

お申込み締切 2018年9月14日（金）

(ふりがな)

①氏名

〒 -  
②住所

③電話

## お問い合わせ・お申込み

大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座麻酔・集中治療医学教室（担当：塚本）

〒565-0871 吹田市山田丘2-2

FAX:06-6879-3139 E-mail: seminar@pain.med.osaka-u.ac.jp

○お申込みいただいた個人情報は本市民公開講座以外では使用いたしません



2018年9月24日市民公開講座「長引く痛みの最良治療」参加者アンケート(参加者40名)

【感想】

- ・今後の役に立ちました
- ・大変参考になりました
- ・勉強になりました。安心しました。
- ・早く良く効く薬が開発される事を願っていますが、難しいのでしょうか。
- ・常に痛みと戦っているので色々な取り組みがある事、大変参考になりました。今日教えて頂いた治療法を近々にチャレンジしたいと思っています。
- ・運動することの大切さがわかりました
- ・柴田先生の話は大変わかりやすく、参考になりました
- ・痛みも色々あり、運動が大切であると思いはわかっていますので実行しておりますが中々痛みは治りません
- ・専門職のチームアプローチの大切さがよくわかりました。「痛い時は炎症をおこしているから動かさないほうがよい」と言われたことがありますが、今日は「動きなさい」と話されたことが目からウロコでした。やっぱり痛い時にどうやって動こうと思いましたが…
- ・明日から取り入れられるような話が聞けてよかった。医療用麻薬の話も興味深かったです。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございます。
- ・とてもわかりやすく、具体的な方法も提示されてよかったです。内容が豊富だったため、一般の方には何か説明を思い出せる資料があればよかったと思います
- ・扁桃体を医学的に立証し、Nature や PAIN に掲載してください。医療機器がもっと発達すれば可能になると思います。
- ・回復リハを退院後、自分なりに以前よりも体を動かす時間を作ったり鍼をしたりしているが、なかなか痛み、しびれが取れなくて困っているというところで知りました。やはり痛みがあっても動く事の大事さと、継続の大切さを再認識できました。京都でも対応してくれるところがあれば…
- ・痛みがあっても軽い運動をしたほうが良いことがわかった。薬づけにならない事がわかり、希望が見えた
- ・良い貴重な話が聞けました。空調がとても寒かったです。
- ・痛みの仕組みから患者様へに対応等、具体的例まで学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・慢性疼痛の分野は診療治療の面でスポットをあてられにくい感じがするのでもっとPRをお願いしたい
- ・予防接種後副反応についての情報を確認することがあり、現在国で取り組んでいる治療について知識を深める事ができました。ありがとうございました。
- ・動かすことの重要性をお聞きして、試してみようと思います。

- ・今後の治療方針がよくわかりました。前向きに行動したいと思います。
- ・新しい治療法が行われるようになり、自分も希望が出ました
- ・とても良い話を聞く事ができ、有難うございました。夫が頑張り屋タイプの背中痛の持ち主なので運動のしすぎをペースを作ってやるように伝えようと思います。ケアマネなのでお客様にも疼痛を持っている方が多くいらっしゃるの、高橋先生のお話は大変勉強になりました。
- ・痛みが起こると休息して寝ている事が多かった。運動することの大切さを学ぶ事ができたので、運動をして痛みのコントロールに取り組んできた。
- ・スライドのコピーがあれば深く理解できる
- ・私は膝が痛いので悩んでいて本日参加しました。よくわかりました。